

先日見学に行った「日本最大のキノコ オニフスベ」がその後どうなったか、もう一度見に行ってきました。私は「すっかり枯死して消滅した」か「多くの見学者に触られて崩れた」のどちらかだと予想していました。しかしどちらもはずれていました。

オニフスベやノウタケなどのいわゆる「腹菌類」と呼ばれるキノコ（子実体）は、若いうちは内部が白いハンペン状で、弾力も水分もあります。しかし成熟して内部の胞子塊ができると、水分が抜けて胞子にまみれた菌糸だけの姿に変化し、「古綿状」になるのが普通です。

植物園のオニフスベも、まさしくその状態に成熟していました。大きさは成熟していなかった時とほぼ同じでしたが、全体が茶褐色で、完全に水分は抜けていました。ところどころ表皮が剥がれていて、そこから胞子にまみれた菌糸塊も見えました。指先でちょっと突いてみると、「胞子雲」が拡散する様子もわかりました。

オニフスベに限らず、真菌類は子実体が成熟して枯れても、地下には菌糸が残っていることも多いものです。うまくいけばその年の秋の間にもう一度、または来年同じような場所にまた発生する可能性もあります。植物園売店の近くでわかりやすい場所なので、こまめに様子を見に行こうと思っています。

(2024年9月下旬／小石川植物園)

